

建築実務演習

講師：井出 健一郎（リズムデザイン一級建築士事務所）

日時：9月27日

教室：1132 教室

福岡大学を卒業後、1年間ヨーロッパに行き海外の建築を見てまわる。

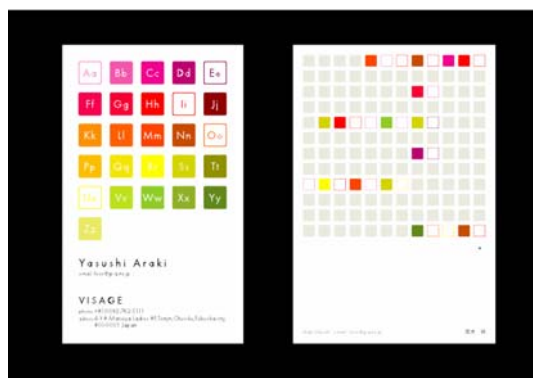
帰国後、就職先の事務所で、住宅・インテリアを設計。

2002年10月依頼人の要求に建築のみで応えるのではなく、デザイン全般で、さまざまなやり方があると感じ、大学の友人らとリズムデザイン事務所を設立。

事務所は築50年の取り壊される予定だったアパートの一室を改装したものである。

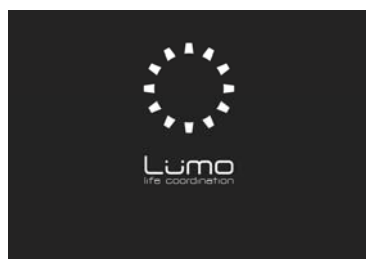
建築以外にもプロダクト、グラフィック、映像のデザインも手掛けている。

最初の仕事は美容室の名刺とDMの作成。待ち時間に楽しんでもらう目的と、客と店員との交流をねらっている。



右のDMに並べられた色を左側のアルファベットにあてはめるとメッセージとして読めるようになっている。

女性ばかりの会社のロゴの製作。女性らしい雰囲気を出した。イラストレーターの使うソフトではなくCADソフトで作成。



WAKATURUマンションのマンション部分のリノベーション。

ターゲットは20~30代の若い世代。

リノベーションとはいかに低コストで、今あるものを生かしながらまったく違うものにするかである。

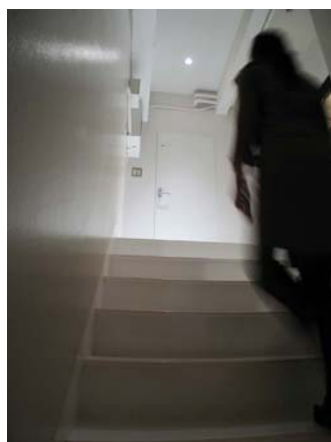
カーテンで仕切り、奥をプライベートな空間としている

完成時にはオープンハウスで家具メーカーから家具を借り、公開。



学生時代の先輩の店のリノベーション。

リノベーションは建築とは異なり、新しいものを造るのではなく、今あるものをいかに美しく削るか。



異次元な空間を意識して改装された階段部分。

ライオンズマンション一階を店舗へリノベーション。

建物を支える大きな梁を隠すため天井が低くなっていたため、一部天井をはがし内部を広くした。

全面ガラス張りが予算的に無理だったので、引き戸の取手部分を透明のアクリルの棒にし、店の営業状況がわかるようにした。



出版関係会社のインテリアデザイン。



奥の倉庫の仕切りはマグネットになっており、資料や掲示物を貼れるようになっている。

やはり、若いので経験もないとみなされ、物件の依頼はなかなかこなかった。

デザインイベントを開催。参加企業 120 社で、福岡以外の東京や海外からの反響も大きかった。

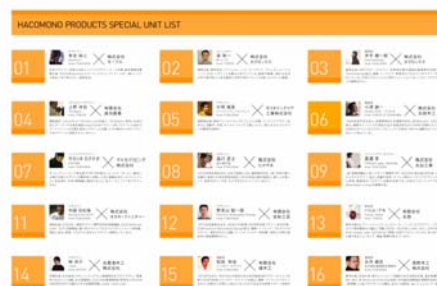
町のいたるところにポスターが張っており、そこにデザインを展示。

リレー形式で歩きながら天神のデザインをたのしむものである。

このイベントをはじめたきっかけとしては、普段敬遠してしまうデザインというものが、実は身近なものだということに気づいてほしかったから。

デザインによって街が豊かになるきっかけになってほしいと思い計画した。

大川でハコモノプロジェクト。はじめはリズムデザインにデザインしてほしいという依頼だったが、1 事務所にできることは限られており、それよりもこれからのデザイナーと色々な家具会社とが協力したほうが大川の繁栄につながるという考えからうまれたプロジェクト。



現在物件を設計中。

質問

・リノベーションの魅力は？

資源がなくなる中で、いまあるものをできるだけ長くつかうことが使命だと感じ、近現代で造られたものをもう一度新しいデザインになおすところ。

・独立したときの予算は？

三十万。もともと独立するつもりはなかったが、家族との交流をたいせつにしたかったため、仕事があったわけじゃないが独立した。

・イギリスで仕事をしたいか？

してみたい。海外の建築学校はレベルが高く、海外の全く価値観がちがう人たちと仕事をしてみたい。

・人とのつながりはどのように造るのか？

海外にいき自分をみつめなおし、友達を大切にしようとかんじた。

・これからの目標は？

デザインのイベントでは福岡が活性することで、自分の事務所としては、長いスパンで残るもの、街の財産になるものを造りたい。また、商品をデザインし、そのロイヤリティで老後を暮らしたい。

・野球をやっていて役に立ったことは？

建築家は寝る暇がなく、体力が基本。今の有名な建築家はほとんど体育会系。